

平成29年度 はっぴいチャイルド事業計画 (児童発達支援事業)

I 基本方針

発達障害を持つ児童が大人になっても地域で安心して、自立した生活を送れることを念頭に置いて、幼児期、学童期という大切な時期に、視覚（テイチ支援）を使い、混乱がなく安定した生活を送れるよう、又簡単な課題を通して自信をつけ個々の持っている能力を引出し自立が図られるよう、児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を行う。周りの人たちの理解が地域で暮らす重要な鍵となる為、地域社会の理解の普及にも努める。

又、両親共働き家庭の支援の為、学校終了後や長期休暇等に見守りで支援をする日中一時支援を行う。障害児を育てる保護者との信頼関係を深め、理解と相談に努める。保護者、支援者、地域社会が一体となり障害児の療育・支援を行う。

II 重点目標

1・支援内容の充実

- ・一人一人の障がい特性の理解、障がいの受容を基本とした関わりをする。
- ・相談支援計画（相談支援事業所作成）を元に個別支援計画を作成し、評価・アセスメント・計画を組み入れる。
- ・スモールステップで繰り返し行い、理解を深め自信に繋げる。
- ・ソーシャルスキルトレーニングを通して社会性を身に付ける。
- ・一緒に遊び、話しかけ、褒め、認めて自信に繋げる支援をする。

2・関係機関との連携

- ・ケース会議、サービス利用計画相談会議、自立支援協議会、幼稚園、特別支援学校、小学校、保健師、他障害者施設、役所等の関係機関との連携を図り、障がい児に対する支援と児童発達事業支援の質の向上に努める。

3・保護者への支援関係の構築

- ・保護者へは障害の特性や子育てに関するアドバイスや相談の支援を行う。

- ・児童の課題や活動状況のお知らせを丁寧に心がけて行う。
- ・保護者同士のお喋り会を開催し、悩みやアイデアなどを話し合い繋がりを深める。
- ・家庭連携・訪問支援の事業を開始し家庭での様子のアドバイスをを行う。
- ・未就学児童の合同遠足を行う。
- ・会報「はっぴいチャイルド通信」の発行。(毎月・A4サイズ)

4・職員の増加

- ・療育やソーシャルスキルの充実、日中一時長期休暇時による、パート職員の増加。

5・定例会・職員会議・研修の充実

- ・利用者の情報を共有する。利用者に関する勉強会（会議の中）や対外的な研修に参加し知識を深め、より良い支援に繋げる。施設見学等。

Ⅲ 年間活動計画

| | | |
|-------|------|---|
| 未就学児童 | 個別支援 | 課題・おやつ・弁当・身辺自立・製作・生活・あそび・ジャスパー（個別遊び） |
| | 集団支援 | 朝の会・帰りの会・感覚あそび・ゲーム・誕生会・運動・SST（未就学用） お楽しみ会・ひなん訓練 など |

| | | |
|-----|------|--|
| 学童児 | 個別支援 | 課題・身辺自立・制作・☆遊び・生活・SST |
| | 集団支援 | ゲーム・運動・オヤツ・誕生会・お楽しみ会・グループ活動（買い物・SST） ひなん訓練 など |

Ⅳ 療育の仕方・目的

- ・自閉症対応・
 - ・目で見て分かる支援 カードを使い次、何をするのが分かるシステム、一人で行動できる。これを経験する事で緊急時や本人が困っている状況の時、書いて見せる事でパニックにならない様になる。

- ・課題・・・一人ひとり利用者にあった簡単な勉強。やり方や意味が分かり自信に繋がる。次に出来る可能性の芽生えを探して出来ることを増やす。
- ・身辺自立・・・トイレトレーニング・食べ方・箸の使い方・靴の履き方など。
- ・オヤツ・・・「下さい・有難う」言葉や態度で表出の練習や空の器を片付け、自分の物は自分で片付ける事を覚える。
- ・お弁当・・・お弁当箱空っぽの満足感・ごほうびシール（偏食直しはせず）
- ・感覚あそび・手で触る色々な物の経験で感覚過敏を軽減して遊べる様にする
- ・運動・・・一緒に歩く・座る・待つ・順番・我慢するが出来るようになる。
- ・製作・・・指示書を見ながら次どうするか・何が出来上がるかが分かる。言葉にも耳を傾け、先生の指示に従える。出来上がりの満足感を味わう。→将来、社会に出た時、人に従えたり、指示書が見れたり、一人でもやれる様になる。

- ・生活・・・タオルをたたむ・紐を結ぶ等・手先の訓練・茶碗を洗う・拭く・片付ける・日常生活の一連の流れを学び、家でも手伝いが出来る様になる。
- ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・・・社会のルールや困った時の言葉や対応の仕方を学ぶ。又苦手な他人の気持ち、思いやりを学ぶ。
- ・☆遊び・・・絵カードで示された物の中からやりたい物を選んで集中して20分遊ぶ。将来の余暇の使い方に繋げる。
- ・ひなん訓練・・・2ヶ月に1度（火事・地震）「お・か・し・も」を守り真剣に職員の話や指示に従い、避難が出来る。経験する事で急な事でもパニックにならない様になる。
- ・ジャスパー・・・好きな遊びだけに固執してしまう自閉症児に、色々なおもちゃの楽しさを経験させることにより、遊びの幅が広がり、友達と遊べる様になる。

| | | | |
|------|---------|------------|---------|
| 29年度 | ・契約人数 | 学童・・・20名 | |
| | | 未就学・・・13名 | 計 33名 |
| | ・一日利用人数 | 学童5名＋未就学5名 | 合わせて10名 |

平成29年度 にじいろ事業計画（日中一時支援）

I 目 的

- ・ 障がいのある児童を日常的に介護している家族の一時的な休息の確保及び障がい者家族の就労を支援する。
- ・ 障がいのある児童の日中における活動の場を提供し、見守り社会的適応する為の日常的な訓練又は創作活動などの機会の場を提供する。

II 活 動

- ・ 基本は見守りの支援。 支援時間・・・8：30～17：30
- ・ 挨拶・おやつ・自主学習・室内遊び（折り紙・工作・パズル・ぬりえ・カルタ・トランプ・季節に応じた遊び）屋外遊び（シャボン玉・水あそび・散歩）製作・おやつ作り・テレビ・ビデオ 等

III 重点目標

- ・ 一日5名の利用者になるように契約者を増やす。
- ・ 安全・安心を心がけ、トラブルの無いように過ごす。
- ・ はっぴいチャイルドと連携をとりながら支援をする。
- ・ 活動内容を丁寧にお知らせする。

| | | |
|------|--------|-----|
| 29年度 | 契約者 | 10名 |
| | 一日利用人数 | 5名 |